



大阪プロバスクラブ

会報 第386号

2023年11月8日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：2022年7月より毎月第2水曜日 12時～14時
 ○創立2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：山下恵司 ○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
 ○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町2-5-23
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○大阪プロバスクラブ会報：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 （R4年11月の第10回総会で決定された新体制）
 会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田富美子
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版：
<http://probuscent.exblog.jp/>

R5年10月初旬～R5年11月初めまでの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 第219号	移動例会”新市庁舎見学”（新市庁舎建設に関しクラブより三万円寄付）、ハッピーボックス、他
東京八王子	プロバスだより 第335号	卓話「運動神経の発達する注射」泉道夫、久しぶりに縄文の旅「三内丸山遺跡」池田ときえ会員、他
赤穂	会報 第46号	5月例会30周年記念行事検討他、6月例会卓話「赤穂に鉄道が来た。そして今は故郷を走る赤穂線の沿革」吉栖清美（鉄道写真家）、他
神戸北	11月例会案内	野外研修「天橋立研修旅行」・トレトレマーケット、ひとこと「お勧め温泉紹介」森田守彦会員、他
大阪	会報 第385号	卓話「サンチャゴ巡礼路について」田中浩三会員、カミーノフランセス姉妹道提携「熊野古道について」、他
奈良	会報 第113号	柿の収穫体験ご案内（知的研修委員長尼崎勝巳）、あれもこれも大和から Vol18「柿の葉寿司」海と山の幸が詰まったソウルフード、他
姫路南（二水会）	会報 第119号	「自転車の免許？返納しました」益田信行、「成瀬は天下を取りに行く」（宮島未奈著）を読んだ」坪田一夫、他

今回 第387回 通常例会 2023年11月8日（水）
 会場：ホテルモントレ大阪 12：00～14：00

- 大阪プロバスの歌（作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎）
- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

●『まつぼっくり』 作詞：弘田孝夫、作曲：小林つや江
 まつぼっくりが あったとさ
 高いお山に あったとさ
 ころ ころ ころ ころ
 あったとさ
 おさるが ひろって たべたとさ



前回 第386回 移動例会 2023年10月11日（水）
 会場：池田さつき会高齢者ホーム「ポプラ」見学
 →箕面公園「風の杜」10：00～15：00

◎池田さつき会高齢者ホーム「ポプラ」見学



シニアタウン「彩の郷」メインストリート

◎箕面公園「山荘 風の杜」



画像引用元：FaceBook 風の杜公式ホームページ

- 司会：親睦活動委員長 浅山紀久子会員
 ○山下会長よりお願い：全日本プロバス協議会第11回総会・五所川原大会への参加を出席会員にお願いしたところ、5名が参加することとなった。
 ○乾杯：川端崇且会員
 ○食事タイム（雑談が延々と）



「風の杜」の1室にて

◎職場訪問「シニアタウン彩の郷ポプラ」見学

池田さつき会理事長伊丹谷五郎会員よりご自身の運営するシニアタウン「彩の郷」の介護サービスポリシー「トータル介護」のお話を聞きました。

(会報担当より：以下Webサイト「池田さつき会法人案内」中の理事長挨拶を引用。なお項目ごとに区分し、表示した)

- ・お客様一人おひとりの思いに沿った形で施設をご利用いただけることを第一義としております。
- ・次に介護はサービス業であるということ。人と人とのつながりからより良い介護が成立し、お客様に満足していただくことができると考えております。
- ・また、介護のサービスに必ずセットであるべきもの、それは医療と看護であります。(中略)(現在は)トータルにお客様のケアに取り組めるようになり、ご家族様にとっても、大きな安心としてサービスを提供することができるようになりました。

★介護度の概要(以下、トータル介護を理解するため介護保険の概要を確認する。)

要支援者		要介護者			
要支援1	要支援2	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
	要介護1				

(文画像とも引用元：公益財団法人長寿科学振興財団健康長寿ネット「介護保険の介護度とは」)

- ・要介護：(要介護1、要介護2、要介護3、要介護4、要介護5の5段階)継続して常時介護を必要とする状態。
- ・要支援：(要支援1、要支援2の2段階)日常生活を営むのに支障があると見込まれる状態。

★要介護区分に分類される際の心身状態

(引用元：Webサイトみんなの介護「要介護とは?8段階の状態像と受けられる介護サービス」)

区分	心身の状態
自立	日常生活に支援や見守りが必要ない。
要支援1	基本的な日常生活動作は自分で行えるが、一部動作に見守りや手助けが必要。
要支援2	筋力が衰え、歩行・立ち上がりが不安定。介護が必要になる可能性が高い。
要介護1	日常生活や立ち上がり、歩行に一部介助が必要。認知機能低下が少しみられる。
要介護2	要介護1よりも日常生活動作にケアが必要で、認知機能の低下がみられる。
要介護3	日常生活動作に全体な介助が必要で、立ち上がりや歩行には杖・歩行器・車いすを使用している状態。認知機能が低下し、見守りも必要になる。
要介護4	要介護3以上に生活上のあらゆる場面で介助が必要。思考力や理解力も著しい低下がみられる。
要介護5	日常生活全体で介助を必要とし、コミュニケーションを取るのも難しい状態。

●シニアタウン「彩の郷」

(会報担当より：「トータル介護」の現状を見学させていただきました。要支援1~要介護5までの状態にある高齢者をどれかの施設で対応できるとのこと。このような施設は全国的にも少ないとのこと。

以下、文・画像とも「ポプラグループ彩の郷とは」より引用、以下、「彩の郷」という。)

ここ(シニアタウンは広さ約4500坪とのこと)に、ポプラグループの特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、ショートステイ、医療施設、農園や喫茶があります。

トータル介護を標榜するポプラグループにとって、最も重要な拠点です。



★シニア向け戸建て賃貸住宅

リベルテポプラ東山9戸(コンシェルジュサービス付き)(文画像とも「彩の郷」より引用)

(会報担当より：この住宅が自由な暮らしができることに強い印象を持った会員もおられました。)

- ・施設ではない、自由でプライバシーが保てる住まい
- ・ご夫婦・親子でのご入居、ペットと暮らせる
- ・専属のコンシェルジュが日々の暮らしをサポート
- ・介護が必要になってもグループの総合力でサポート
- ・ポプラグループのクリニックが健康面をサポート
- ・入居者様専用の菜園をご用意



★デイサービスセンター100名

(文画像とも「彩の郷」より引用)

・2021年12月よりランチを一新。北摂屈指のレストラングループとタッグを組み、見た目も美しく素材本来のおいしさにこだわったお料理の数々をデイサービスでの昼食として提供しております。(中略)

・専用の「ポプラのはたけ」が敷地内にあり、種を蒔いたり、収穫をしたりと四季のサイクルを体験していただけるようになっています。

・自然豊かな立地の中、「自己選択・自己決定」を基本にコンサートや日本舞踊、手芸など文化的なことから、畑作業やノルディックウォークのようなアクティブな活動にもご参加いただけます。

・脳トレの一環『シナプソロジー』という脳科学を元にしたレクリエーションも実施しています。



(特別養護老人ホーム1階デイサービスセンター)

★ショートステイ 14名 (彩の郷より引用)

ショートステイは、ご家族様の急な用事や遠方への外泊・外出などの際に、介護保険を用いて短期的に介護施設に宿泊して介護・支援が受けられるサービスで、ご家族様の精神的・身体的負担の軽減を目的としてもご利用いただけます。

★介護付き有料老人ホームレリーサポプラ 48室 (彩の郷より引用)

- ・レリーサはイタリア語で“笑顔”。お客様にずっと笑顔でお過ごしいただきたい、という想いでレリーサポプラと名付けました。
- ・ほぼ毎日、施設内でヨガや音楽会など複数のイベントがあります。
- ・専用のカルチャークラブ「ベルデクラブ」を1階に設置。書道・手芸・パンお菓子作りなど豊富なメニューを用意しております。
- ・医療法人のクリニックが1階に併設されており、専任医師による定期往診に加え、緊急時にも可能な限り対応いたします。

★特別養護老人ホームポプラ 100床 (彩の郷より引用)

- ・入居者様には、全室個室によるプライバシー配慮の空間をご用意。ユニットケアによる健康管理と生活サービスの連携で、我が家にいるような快適に安全・安心をプラスした総合施設です。
- ・ショートステイ・デイサービス併設。
- ・建物内にカフェや理美容室・ラウンジ・シアターなどを備えており、これまでの生活を継続いただけるようハード面も充実しています。
- ・『最期のときまでその方らしく』施設内での看取りにも対応しております。
- ・レクリエーションにも力をいれており、周辺のお散歩、お買い物にとどまらず、ご希望者をつのって動物園や淡路島への日帰り旅行、競馬場にもお出かけします。
- ・ポプラ発祥の地、東山《彩りの郷》の中心施設として、周辺の6施設と連携した大小の合同イベントも企画・実行しています。

◎近況報告「丹波篠山に行ってきた」山下恵司会員
(会報担当より：丹波篠山の資料を幾つか頂きましたが、記事としては歴史等からデカンショ節を取り上げました。)

★デカンショ節 (Wikipediaより)

デカンショ節は、兵庫県丹波篠山市を中心に盆踊り歌として歌われる民謡であり、学生歌としても広く歌われた。(中略) デカンショ節が学生歌として全国に普及したきっかけとして、以下のような伝承がある。旧篠山藩主の青山家は、明治維新後は学問を奨励し、篠山に鳳鳴義塾等の私立の中学校を作り、その中の優秀な者を東京に寄宿舎を作り遊学させた。篠山からの遊学生は、例年、夏には千葉県八幡の浜で過ごしていた。明治31年(1898年)の夏、宿泊先の江戸屋の2階で元藩主・青山忠誠の養子・青山忠允をはじめとする篠山出身の若者達が郷土の盆踊り歌を、蜩声を張り上げ「デコンショ、デコンショ」とうたっていた。それをたまたま階下に宿泊していた旧制一高の水泳部員の塩谷温達がこの歌を聞きとめ、たちまち気に入り、デカルト、カント、ショーペンハウエルを文字って「デカンショ節」と名付けて歌ったという。そこで、一高水泳部員達は、篠山出身の若者たちに付添っていた亙理章三郎(後の東京高等師範学校教授)などから歌の指導を受け、意気投合した。それを、東京に戻ってからも歌った。これによって多くの学生や若者の共鳴を受けて愛唱されるようになり、全国に広まった。

★デカンショ祭

(画像引用元：デカンショ祭り公式サイトより) (文引用元：WebサイトPublic Relations Office Government of Japan 同名記事より)



丹波篠山では、地域の夏祭りデカンショ節にあわせて住民が踊っている。その中でも最も大規模なのが毎年8月15日、16日に開催される「デカンショ祭り」である。今年で64回目となるデカンショ祭りの会場は、篠山市の中心地にある篠山城跡で、2日間で約10万人が集まる。祭りのハイライトでは、祭り会場の中央に建てられる櫓を約1000人の踊り手が輪になって踊り、打ち上げ花火が夜空を彩る。祭りでは毎年、公募から選ばれたデカンショ節の新たな歌詞も披露される。

★民謡に載せて歌い継ぐ故郷 (引用元：同上)

「デカンショ節には丹波篠山の文化、歴史、名所、名産品などが歌詞に盛り込まれています」と篠山市創造都市課の小山達朗氏は言う。「普通の民謡と大きく違うのは、毎年新しい歌詞が付け加えられていくことです。現在では約300番まで歌詞があります。」
デカンショ節の歌詞は、一つひとつが30秒程度で歌える

ほど短く、ユーモラスに富んでいる。最もよく知られる歌詞は「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で芝居する」であるが、この歌詞は、丹波篠山の山奥に住んでいた猿が、華やかな江戸（東京）で活躍するというのが大まかな意味である。田舎者の活躍を自嘲的に歌ったものである。

★これが代表 10 選（デカンショ節の歌詞）
（引用元：Web サイト「デカンショ祭り」、デカンショ節の歌詞より）

丹波篠山山家の猿が花のお江戸で芝居する
デカンショデカンショで半年暮らす あとの半年寝て暮らす
丹波篠山鳳鳴の塾で 文武鍛えし美少年
丹波篠山山奥なれど 霧の降るときゃ海の底
酒は飲め飲め茶釜でわかせ お神酒（みき） あがらぬ神はない
灘の銘酒（おさけ）はどなたがつくる おらが自慢の丹波杜氏（たんぼとじ）
盆のお月さん丸こて丸い 丸てまんまるこて まだ丸い
わたしゃ丹波の勝栗（かちぐり）育ち 中に甘味も渋もある
雪がちらちら丹波の宿に 猪（しし）が飛び込む牡丹鍋（ぼたんなべ）
デカンショデカンショと唄うて廻れ 世界いずこの果てまでも

◎近況報告「閑谷学校へ行ってきた」浅山紀久子会員

★閑谷学校とは（以下文画像とも Wikipedia より引用）



特別史跡旧閑谷学校

閑谷学校（しずたにがっこう）は、江戸時代前期に岡山藩によって開かれた庶民のための学校。所在地は岡山県備前市閑谷。「旧閑谷学校」として特別史跡に指定され、講堂は国宝に指定されている。岡山藩主池田光政によって開設された日本最古の庶民学校である。藩士のための教育施設（藩校）「岡山学校」に続き、岡山藩立の学校として開かれた。建築は 2 期に分けて行われ、32 年の月日を費やした。他に例をみない手間隙かけた質とスケールを誇り 330 余年の歴史をもっている。地方の指導者を育成するために武士のみならず庶民の子弟も教育した。また、広く門戸を開き他藩の子弟も学ぶことができた。就学年齢は 8 歳頃から 20 歳頃までであった。カリキュラムは 1 と 6 の付く日には講堂で儒教の講義があった。

●論語

★閑谷論語塾：特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会によって現在も**国宝の講堂で論語を学べる。**

（公財）特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会		全 15 回
閑谷論語塾		
①4/15 現代に生きる論語の教え	⑩10/7 ほどほどに生きる	
②5/6 人付き合い	⑪10/21 リーダーとは	
③5/20 自分の幸せ・他者の幸せ	⑫11/18 若さと老い	
④6/3 教育の大切さ・過程の大切さ	⑬12/2 働く者の心構え	
⑤6/17 思いやりの心	⑭2/3 生きる意味について	

（画像引用元：Web サイト旧閑谷学校・閑谷学校の論語塾開催パンフレットより一部分を切抜した）

★閑谷学校の孔子ゆかりの土産物（同上サイトより引用）

・旧閑谷学校では江戸時代前期の創設以来、中国の学者・孔子（こうし）を祖とする儒学（朱子学）を教えており、（中略）土産物も孔子ゆかりの品々をそろえている。
・「あいうえお論語」（特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会編、森 熊男監修）は現在閑谷学校で販売されている。

★講堂（国宝）

画像文とも（Web サイト Public Relations Office Government of Japan：350 年の時を経て耐久性を実証する閑谷学校）より引用



講堂内部

閑谷学校の建物群の中心を成す講堂には、工事の指揮を執った津田永忠の確固たる建築思想を見てとることができる。

土台には水分による腐食を避けるために、赤土や貝殻を焼いた石灰に松脂（まつやに）や酒を混ぜた和風セメントが打たれ、重厚な入母屋（いりもや）造り*を支える。屋根瓦に使われているのは、岡山県備前地域を産地とする「備前焼」である。通常の瓦の寿命が 60 年と言われる中で、耐久性、耐水性に優れた備前焼は、300 年以上経過してもほとんど劣化することなく、当時のものが現存し、雨風に耐えている。



備前焼瓦

以上

次回 第 388 回 Xmas 例会 2023 年 12 月 20 日（水）
会場：ホテルモントレ大阪 16：30～